
平成 29 年

8 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

多様な担い手づくり

岐阜農林■新規就農者 岐阜市の園芸品目就農状況現地確認

8月1～3日、岐阜市内で平成23年度以降にいちごや施設野菜、露地野菜等で新規就農した15名に対し、岐阜市役所、JAぎふの関係機関と農林事務所が連携して、就農後の経営状況の現地確認を行った。

苗の活着やハウス内での病害対策の状況等栽培技術に加え、経営規模の拡大に伴う農地・資金の確保などに関する課題について関係機関から改善方策や今後の対応等を助言した。

農林事務所も関係機関と連携しながら、経営安定と営農定着に向けて、今後も継続して支援していく。



【現地確認の様子】

揖斐農林■新規就農者 就農者の経営状況を確認・指導

就農後の定着を図るため、国の施策として農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金制度）が平成24年度から始まったことから、揖斐地域でも就農者が増加している。現在、当事業の活用者は揖斐郡内で19戸あり、農林事務所では半年に一度、作物の生産量や販売額、経費など収支の状況を確認するとともに、改善点を指導している。8月8、22～24日には、大野町、揖斐川町の就農者を対象に、農林事務所農業振興課と農業普及課の担当が町職員やJA職員とともに面談を行った。



【面談の様子】

可茂農林■農業高校生 農業自営者見学研修会開催支援

8月2日、農業経営課と岐阜県産業農業振興会農業教育部会主催の標記研修会が開催され、就農を希望する県内農業高校生約30名が参加した。清流の国「ふるさとワーキングホリデー」事業を利用して管内指導農業士の元で農業体験中の大学生5名も参加し、現地視察および室内研修が行われた。

加茂農林高校での室内研修では、管内指導農業士及び青年農業士が講師となり、自身の経営や地域での活動、農業士の活動などをスライドを交えて紹介し、農業の魅力や学生に伝えた。また、商工業との連携や地域を盛り上げる活動の必要性なども学生に熱く語っていただいた。

農林事務所では、将来の貴重な担い手として期待される農業高校生の活動を支援するとともに、担い手育成に貢献されている農業士の活動も支援していく。



【農業体験している大学生を農業高校生に紹介する指導農業士】

東濃農林■新規就農希望者 就農支援会議を開催

東濃農林事務所では、前年度からの継続も含め現在6件の就農相談があり、市、JA等関係機関と情報共有を図る中で支援活動を行っている。

8月9日には、土岐市で露地野菜での就農を目指す就農希望者に対し、関係機関による支援会議を行った。農業経営の構想を伺うとともに、品目の選定、作付体系、販売方法、労力、機械施設の整備、農地の取得等について検討し、助言を行った。

農林事務所では、今後、会議での意見や助言を参考に新規就農者の就農計画を策定や就農後の早期の経営安定まで継続して支援を行っていく。



【支援会議の様子】

恵那農林■クリ・東美濃栗振興協議会 「クリ新規栽培見学ツアー」を開催！

8月20日に、中津川市内2か所のクリ園において、東美濃栗振興協議会とJAひがしみの主催による「クリ新規栽培見学ツアー」が開催され、クリ栽培に関心のある方11名が参加した。

当日は、植栽7年後、並びに20年以上が経過した代表的な2か所を訪問。参加者は今後の栽培開始に役立てようと意欲的に見学し、園主の生産者から栽培の実情等の説明を受けた後、活発な意見交換が行われた。

今回の参加者のうち、2名が新たに30aの栽培を開始する意向があり、農林事務所では、東美濃クリ産地の拡大に向け、今後も同ツアーの開催など新規栽培者の確保に向けた支援を継続する。



【見学ツアーの様子】

下呂農林■新規就農 関係機関と合同で就農者を訪問

下呂市では、関係機関一体となった就農支援活動により新規就農者数が着実に増加しており、その後の営農定着にも力を入れている。そのため、市・JA・農林事務所では8月15日から5日間にわたり、24年度以降の就農者13名を訪問し、経営状況の聞き取りを行った。

これは、営農定着に向けたフォローアップ活動の一環で、生産状況や課題を把握し、的確な解決策を提案するために行ったものである。

就農者の中には積極的に雇用労力を導入し規模拡大につなげている者も現れる一方で、労力不足により栽培管理が不十分な者も見られた。

今回は、就農後の早い段階からの雇用労力導入をどうするかなど、営農定着に向けた地域の課題が見えてきた訪問となった。



【ほ場での聞き取り】

売れるブランドづくり

農業革新支援センター■飛騨牛 肉牛生産者団体の牛枝肉研究会

8月28日に岐阜市食肉地方卸売市場（岐阜市）において平成29年度ひがしみの肉牛枝肉研究会が開催された。

革新支援専門員は畜産研究所、JA全農岐阜県本部とともに審査を行い出品された牛枝肉22頭の中から枝肉が充実し、霜降り状態が細かく、脂肪の質が優れた3頭を入賞に決定した。また、飛騨牛の特徴に関する肉質評価及び飛騨牛の現状について講演を行った。

革新支援専門員は関係機関とともに肉牛生産者の経営改善のため適切な飼育管理について指導を実施する。



【肉牛枝肉研究会】

西濃農林■GAP 内部監査及び研修会を実施～神戸町下宮青果部会協議会～

7月25日に神戸町下宮青果部会協議会で取り組んでいる下宮版GAPの内部監査を実施した。

協議会役員、JA下宮支店担当者、農業普及課が8班に分かれて全会員宅を巡回し、農薬の保管状況、動力噴霧器の洗浄状況など17項目について確認した。ほとんどの項目で昨年比べて「できた」の割合が高くなり、GAPの取り組みが会員に浸透してきている。

監査結果については、8月29日に全会員を対象に説明会を実施する予定である。

また、7月31日には県のGAPアドバイザー派遣制度を利用して、GAP認証に向けた研修会を開催した。当日は、イオンアグリ創造株



【GAPアドバイザーによる現地指導】

式会社の品質管理室長から「GLOBAL GAP」について講義を受けた後、健康やさい村の作業場、農薬保管庫、ハウスなど現地での注意点について説明をしてもらった。協議会の会員や関係者など36人が出席した。今後もGAP認証に向けて勉強会を開催していく計画である。

中濃農林■円空さといも さといも先進地視察実施

中濃里芋生産組合では、役員による県外視察を2年に1回実施しており、今年は8月23日に富山県上市町への先進地視察を実施した。視察先では、グリーンマルチや基肥一発肥料による省力化の取り組みとJA集出荷施設での選果機や予冷库の活用について説明を受けた。参加者からは、「収穫・調整作業がしやすい工夫がされており、省力化に向けて大変参考になった」との感想が聞かれた。

農林事務所では、円空さといもの産地拡大に向けて、今後も組合活動を支援していく。



【ほ場視察の様子】

郡上農林■夏秋トマト 郡上産冷しトマトをPR販売

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会青年部ではめぐみの農協青年部と合同で、徹夜踊りの開催日にあたる8月14日に八幡町の城下町プラザで郡上産冷しトマトのPR販売を行った。

農林事務所職員もこのイベントに参加してトマト産地のPR活動支援を行った。当日は冷しトマトの看板やのぼりを設置し、揃いのTシャツを着用して場を盛り上げ、郡上がトマトの産地であることを宣伝した。

当日は時折雨が降るあいにくの天気であったが、冷やトマトはまずまずの売れ行きで仕入れたトマト100kgはほぼ完売した。お客さんには子連れの家族が多く、トマトの丸かじりを体験することで郡上産トマトの味を覚えて貰う良い機会となった。今後も農林事務所は同様のイベントに参画し産地のPRを継続していく。



【冷やトマトの販売】

飛騨農林■モモ 飛騨おとめPR試食販売会を開催

8月20日、県オリジナルのモモ新品種「飛騨おとめ」の本格的出荷を控え、市内2店舗のスーパー及び宮川・陣屋前朝市にて、PR試食販売会を開催した。

当日は、飛騨高山高校山田校舎の高校生と関係機関が一体となって地元住民や観光客に今年度収穫された「飛騨おとめ」を振舞い、PRを行った。また、高校生が考案した「飛騨おとめ」の特徴やこれまでの活動内容を記載したPRチラシの配布やアンケートも実施し、消費者との交流も盛んに行われた。

スーパーでは、管内生産者から出荷された商品も販売され、今年で2回目となったPR試食販売会は好評のうちに終了した。

農林事務所では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、今回のアンケートで得られた結果も踏まえ、「飛騨おとめ」の更なるPR活動に向けた支援を実施する。



【PR試食販売会の様子】